

新しいふるさとづくり

Creating a new home

新しいふるさとづくりとは

- ・心の豊かさにつながるものの存在に気づくこと
- ・郷土に伝わる古き良きものを「これから」に生かすこと

ふるさとのこと

この地域の恵まれた自然や風土、
この地に生まれ育った人たちや出会った人たち・・・
そこに暮らした人たちの思いや願い、知恵や工夫・・・が、
いく重にも重なり、つながり合って文化が生まれました。
そして、そこに流れた時と時のつながりは、
やがて、いつの日からか歴史や伝統へと醸されていきます。
「ふるさと」って・・・？
いろんな「出会い」や「つながり」の連続でつむぎ出された
尊き「場所」であり、愛しき「記憶」なのです。

白菜のふるさと「みやぎ」から・・・

たくさん「出会い」と「つながり」を重ねてきたように、
一枚一枚の葉が巻き合ってきた結球白菜。
ふるさと「みやぎ」の百年が育んだ
尊き食文化のひとつです。

Origin × ♥ = Originality

まず、ふるさとの「百年白菜」から
ふるさとの「これまでの百年」を
訪ねてみよう。
ふるさとの恵まれた自然や風土、
そこに生きたたくさんの人々の熱き
思いや願い、日々の暮らしの
営みの中から生まれた知恵や工夫、
そして文化や歴史、伝統・・・
わたしたちの愛しきふるさと「みやぎ」
の「これからの百年」の「らしさ」と
出会うために。



Yoko Sasaki

Origin × ♥ = Originality

「はじまり」を「大切に思う」と
「らしさ」が生まれます。

ふるさと「みやぎ」の
これまでの百年を訪ねて

それぞれの地域にある
「白菜物語」との出会い

ふるさと「みやぎ」の食文化である「百年白菜」
に関する学びや鑑賞活動を通して、みやぎ県内各
地域の「これまでの百年」を訪ねます。
ふるさと「みやぎ」の恵まれた自然や風土、文化
や歴史、伝統・・・そして、先人たちの暮らし
の中から生まれた知恵や工夫、幸せや豊かさを追
い求め続けた熱き思いや願いにふれます。白菜の
ふるさと「みやぎ」の「懐かし」一歩し続けてきた
「これまでの百年」と出会うために。

ふるさと「みやぎ」の
これからの百年を知る

新しいふるさとづくりで
大切にしたいこと

ふるさと「みやぎ」の「これまでの百年」を
訪ねると「これからの百年」の新しいふるさと
づくりで「大切にしたいこと」に気づきます。

- ◎心の豊かさにつながるものの存在に
気づくこと
- ◎郷土に伝わる古き良きものも
新しいふるさとづくりに生かすこと

東北・みやぎらしい
新しいふるさとづくりへ

地域のみなさんとともに
ふるさと「みやぎ」の「らしさづくり」を

各地域の「白菜物語」同士がつながると？
新たな価値を持った「白菜物語」に出会えます。
点と点がつながって線になり、線と線がつながれ
て面になります。人と自然が、人と人が、心と心
が、時と時が・・・そして地域と地域がつながります。

新たな価値を持った「みんなの白菜物語」と
東北・みやぎらしい「新しいふるさとづくり」を！
ふるさとを愛する地域のみなさんとともに。

宮城県は、白菜の育種と生産に関して約百年の伝統を持つ「白菜のふるさと」です。このプロジェクトは、地域伝統の白菜の食文化資源を活用して進める「新しいふるさとづくり」の取り組みです。

地域の食文化は、その地域固有の自然や風土、そこに生きた人々の知恵や工夫、思いや願いなどにより紡がれてきました。ふるさとの白菜の食文化をひも解く「食の学び」から、私たちは心豊かなふるさとの「らしさ」に出会うことができます。Origin × ♥ = Originality! 「はじまり」を「大切に思う」と「らしさ」が生まれるのです。

身近すぎるほどの野菜「白菜」-日頃何気なく接している「もの」や「こと」に、そのルーツを訪ねたり、見方をちょっと変えてみると、そこには、心豊かなふるさとの「らしさ」と「これから」が映し出されるのです。

東日本大震災で被災した塩釜市浦戸諸島・野々島の白菜の採種畑で、震災後初めて種が収穫された。畑の再生、栽培に中心となって取り組んできたのは、明成高(仙台市青葉区)

塩釜・野々島

調理科の生徒らでつくる「リエゾンキッチン」。宮城に緑の深い白菜について学ぶ際に活用してもらおうと、希望する学校などに種を提供する。

明成高生徒ら栽培の白菜



野々島の採種圃場 2011.12

被災した畑種を初収穫



約30坪の畑で収穫された種は約1kg。スプーン100袋を用意した。島の約1休分の種で、見る限り少ない量を収穫した。島野々島で収穫された白菜の種とさや



野々島のお母さんたち

希望する学校に提供

で栽培されたことを伝えようと、袋には「海を渡る白菜の種」とい、島の食文化を伝える言葉を添えた。白菜の食文化に関心があがり、栽培、勉強がはじまり、野菜の再生に取り組むたい学校やグループ、仮設生活を支援するリエゾンキッチンを指し示してもう、種まきの準備は11月15日ごろから1週間程度、11・12月と渡りつなぐが、種をきつかけに、豊かな白菜は10年ほど前に中国から日本に持ち込まれた。宮城は国内の採種と生産を先導し、「仙台白菜」は「被災地を元気づける」として提供された。仙台白6。



地域の皆さんとの新しいふるさとづくり 菜の花の咲く頃

